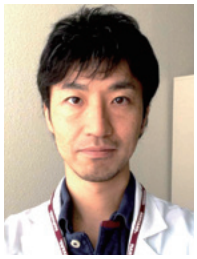
あきたGP NET 専門研修プログラム

定員 5名



プログラム責任者
総合診療・検査診断学講座
植木　重治 教授

専門研修担当者連絡先	植木　重治　教授 TEL／FAX.018-884-6428 E-mail　gpcenter@jimu.akita-u.ac.jp HP　https:// www.hos.akita-u.ac.jp/gpcenter/

プログラムの特徴

秋田県内に4つあった総合診療専門研修プログラムが2023年度に統合し、本プログラムが誕生しました。秋田大学医学部附属病院をハブとして、秋田県内をあまねく網羅した22か所の多様な医療機関(県外含め)と連携し、各医療機関の特徴を活かした研修の組み立てが可能です。

秋田県は高齢化率全国1位を独走し、「10年先の日本の姿」がここ秋田県にあると言っても過言ではありません。高齢者が抱える多疾患併存の問題や医療・介護・福祉の連携、ヘルスプロモーションなど、多くの学び・実践の場を提供するとともに、週1回のhalf day backを始めとした濃密な振り返りでその学びを今後に活かす「省察的実践家」としての総合診療専門医を、指導医や仲間と共に目指します。

詳細は、https://akitagpnet.orgをご覧ください。

プログラムの説明

本プログラムの1年あたりの定員は5名です。病院・診療所などで幅広い診断能力を持つ総合診療専門を養成するにあたり、診療科にとらわれない診療を行う「総合診療専門研修Ⅰ／Ⅱ」、領域別研修の「内科／小児科／救急科研修」を秋田県内外の連携22施設でフレキシブルに行うことが可能です。

研修は「臨床現場での学習」・「診療現場を離れた学習」・「自己学習」の大きく3つに分けられ、基幹施設または連携施設の施設群で、それぞれの特徴を生かした症例や技能、診療に関わる情報などを幅広く専門的に学ぶことができます。

研修の一例として、1年目は基本的な医療知識・手技・技術・疾患マネジメントを身につけ、2年目は地域に密着した形での診療を通じて社会・地域に根差した医療を提供し、総合診療医に求められる研修を行います。3年目には総合診療専門医として必要とされる能力の最終的な獲得を目指します。

本プログラムは専攻医からのフィードバックを重視し、研修の順序・期間等は個々の希望や状況を勘案しプログラム改善も行いながら、診療のみならず国内外の学会への参加・発表、英文での論文作成、研究なども推奨しています。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設 など

■各種学会認定・専門医

総合診療専門医・指導医、家庭医療専門医、プライマリ・ケア認定医・指導医、病院総合診療認定医・指導医、地域総合診療専門医・指導医、総合内科専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医、日本消化器学会専門医、日本肝臓学会専門医、ほか多数の専門医を含む。

■各種学会施設認定

日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療後期研修プログラム認定施設、日本病院総合診療医学会 病院総合診療専門医後期研修プログラム認定施設

■主な出身大学

秋田大学、東北大学

■主な連携施設

秋田厚生医療センター、秋田赤十字病院、湖東厚生病院、男鹿みなと市民病院、市立大森病院、亀田ファミリークリニック館山(千葉県)、北秋田市民病院など(連携施設22施設)

■取得までのキャリアパス

	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目～
	総合診療専門研修			サブスペシャリティ専門研修※				
総合診療	大学病院をハブとして県内外22施設での研修			総合診療専門医試験→専門医取得			・大学病院や地域の市中病院での総合診療の実践 ・卒前・卒後教育への参画 ・研究 ・国内外留学	
総合診療＋サブスペ	大学病院をハブとして県内外22施設での研修			大学病院をハブとして県内外22施設での研修		随時サブスペ専門医試験→専門医取得		
上記＋研究	大学病院をハブとして県内外22施設での研修			大学病院をハブとして県内外22施設での研修				
	随時 社会人大学院への入学 → 学位修得							

※選択するサブスペシャリティによって期間，研修施設が異なります

◆主要なサブスペシャルティ：家庭医療，病院総合診療，地域総合診療